

2016年4月26日

熊本地震 初回派遣医師募集終了 経緯と進捗

日本新生児成育医学会
災害対策委員会 委員長 和田和子

18日より募集しました派遣医師の登録は、26日現在、個人20名、11施設のご登録をいただきました。初回の応募は一旦締め切らせていただきます。ご応募ありがとうございました。ご応募いただきました方には、受け入れが整い次第、直接ご連絡差し上げますのでお待ちください。

経緯と進捗を記します。

ご存じのとおり、一連の地震により熊本市民病院は深刻なダメージを受け、その機能回復は年単位に及ぶ可能性が指摘されています。NICU 18床・GCU 24床を有し、県内の超早産児および先天性心疾患の管理の大半を担ってきた市民病院の機能停止の影響は深刻であり、市民病院再建までの長期的なハイリスク分娩および新生児対策が急務となっています。現時点では、県外施設への母体・新生児搬送により母集団を減じつつ、機能が維持されている熊本大学病院および福田病院の周産母子医療センターが症例数・重症度を上げる形で対応していますが、現地施設および熊本県からの症例を受け入れる近隣県の周産母子医療センターにおけるスタッフの疲弊が懸念されます。このような事態に対応すべく、本学会では、1週間単位で被災県及び近隣県の支援施設において、直接・間接的に熊本県の周産期医療復興にご協力いただける新生児科医の募集及び派遣支援を行うことにいたしました。現在、派遣先となる下記施設の受け入れ準備を行っているところです。

派遣に関する注意事項です。

資格：後期研修を終了し、単独でハイリスク新生児の分娩立会いおよび（搬送）ができること。周産母子医療センターにおいて、1年以上の研修を受けていることが望ましい。

経費：交通費・宿泊等の諸経費については、学会が負担いたします。

派遣先：

・熊本大学付属病院・福田病院、および熊本県からの母体・新生児搬送の受け入れ窓口となる後方支援施設とします。後方支援施設としては、現時点では久留米大学病院および聖マリア病院を予定していますが、今後の状況により追加・変更となることがあります。

・応募者・受け入れ施設双方の希望を反映させるために、簡単なマッチングを行います。ご希望に沿う派遣先にならない可能性があることをご了承ください。

業務内容：

・一般新生児業務（オーダーリングシステムを用いた指示を含む）および当直・待機・分娩立会い・入院処置・搬送・健診・フォローアップ外来

・熊本県以外の施設への派遣の場合も、熊本大学付属病院および福田病院における短期業務代行をお願いすることがあります。

今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。